

21世紀と経営倫理の課題（197 回理哲部会資料）

理念哲学部会 宇佐神 正明

はじめに：21世紀世界における諸民族の立ち位置の確認への要請（共存の条件）

——いのちの階層的展開としてのビッグ・ヒストリーという視座——

一、21世紀の世界と経営倫理の課題：企業倫理と経営倫理の間

倫理（動径エネルギーの展開としての）と道徳・論理（接線エネルギーの展開における）の包越者＝人類
 霊性＝精神性＝気（日本においては場の〈いのち〉に担われ、西欧においては粒の〈いのち〉が担う）

1. 第一次世界大戦までの世界：西欧（粒のいのち）、日本（場のいのち）はそれぞれ独自に発展
2. 第二次世界大戦（大東亜戦争）の性格：日欧の植民地政策の本質的違いとアメリカの世界の警察化
3. 第二次世界大戦後の20世紀後半の世界：ポストモダンの世界の展開、警察官・アメリカの没落
4. 戦後日本の発展（その由来と歴史的形成）：村上・公文・佐藤『文明としてのイエ社会』（1979）

二、20世紀後半（ポストモダン）の世界の展開：文化多様性の認識（道徳的多様性と倫理的統一性）

1. ポストモダニズム、コミュニタリアニズム
2. 文化的相対化と多様性：ヘブル語とギリシャ語の文化形成上の機能、創造と製作、日本語の性格？
3. 現象の観察記述を核に20世紀後半の学問は展開：精神分析学、医学、人類のDNA、宇宙物理学…
4. 『現象としての人間』（1938）の提起した世界像：渦動エネルギーにおける創造の頂点に立つ人類
5. 20世紀後半における倫理的世界の新展開（日欧の視点の出合）：生命倫理、環境倫理、経営倫理
6. M. シューラー『宇宙における人間の地位』（1928）と哲学的人間学の開示した人間像

三、経営倫理とは何か

1. A.トフラー『第三の波』（1980）の提示した世界、IT情報技術革命と共時的世界の成立と日本観
2. ジャック・アタリ『金融危機後の世界』金融工学の産み出した世界の倫理的逸脱
3. 資本主義の終焉と新しい人類のフロンティア；水野和夫『資本主義の終焉と世界の危機』（2013）
4. 倫理的課題としての社会的共通資本：教育・医療・インフラの整備；宇沢弘文『社会的共通資本』
5. トマ・ピケティの提言の有効性の検討：
6. 企業倫理と経営倫理との間：政治的存在としての人間
7. 藻谷浩介『里山資本主義——日本経済は「安心の原理」で動く』（2013）

四、21世紀と日本

1. 日本歴史文化の特異性：列島上に県民性を可能とした、渡来多民族から成る共同体（単一民族）
2. 和の理念と場の〈いのち〉の世界：三宝とは三法で、もとは儒仏神を指したとされる。
3. 地球という場の〈いのち〉とその生態系：福島第一原発（東電）と女川原発（東北電力）の間
4. 日本の倫理的課題：和辻『人間の学としての倫理学』の今日的意義

おわりに

日本からの経営倫理への提言：場の〈いのち〉の展開と経営倫理への射程

ウェーバーの政治家の資質（＝情熱、責任感、目測）への新しい要請